

第41話 転任試験



「転任の件につき相談したし。電話乞う。藤井」
という電報がとどいたのは、私が母校の茨城県立古河第一高校につとめはじめてから3年目であった。就職して1年目のおわりごろには茨城県の下館から、2年目には水戸一高から、それぞれ「転任しないか」という話があったが、これは佐藤校長の「県内で移動してもたいしてプラスにならない」という判断で一言のもとにしりぞけられてしまっていた。しかしこんどは担任の藤井教授からの連絡だから、話がちょっとちがう。私はとるものもとりにあえず、まず先生に電話した。

「きみは古河につとめてそろそろ3年になるね」
と藤井先生は電話のあちら側でおっしゃった。

「はい」

「それでは、もう転任を考えてもよからう」

「そうですか。でも校長が何と申しますか…」

「うん。校長さんのほうはボクからも説得してみよう」

「ありがとうございます」

藤井教授の話では、東京都立S高校に空席ができたとのこと。ただしこのポストには競争者がいるはずなので、私は教育大推せん候補者という形でこの人とあらそうのだそらであった。自動的な横すべりの転任を頭にえがいていた私は、この話でちょっと不安感を持ったが、そこは持ちまへののんきさで「何とかなるサ」と思い込むことにした。

2月のある日、私は校長面接を受けるためS高校に出かけた。すべて藤井教授の指示のとおり動いていけばよいのだから気が楽であった。S高校は都立の有名校のひとつで、大学への進学率も高く、教師陣もきわめて優秀であると聞いていたので、それを考えると胸が高鳴った。

私は玄関の受付で、女子事務職員に来意を告げた。

「名刺をいただけますか」

と、その眼鏡をかけた鼻の高い受付係の人が言った。

「あ、あいにく、私は名刺を持ちあわせませんで…」

「そう？ それなら、この紙に名まえを書いてください」

何となく感じのよくない人だった。

「こちらでお待ちなさい」

と通されたのは、応接室ではなくて事務室の片隅だった。

「校長はいま来客中ですので、もう少々お待ちください」

私は所在なく、事務室の中をあちこち見まわした。日割のラインが入っている小黒板に、2年父兄会、理科研究

会、会計検査…などどこの学校でも見かけるような行事の予定が書き込んであった。2、3人の事務員が帳簿らしいものにペンを走らせていた。時間はどんどんすぎ、私が玄関をはいってからすでに40分もたっていた。きちんとアポイントメントをとってやってきたのに、ずいぶん失礼な話だ、と思った。のどがかわいてお茶が飲みたくなかったが、がまんした。

約束の時刻を1時間ちょっとまわったころ、私はやっと校長室に通された。そして、面接は5分もかからずに終了した。名まえと住所と家族関係について簡単なやりとりがあっただけであった。

数日後、藤井教授から電話がかかった。

「S高校はダメだったよ。校長ははじめからきみをとる気はなかったらしい」

この高校の英語科は東大と教育大の出身者で占められており、校長は「勢力の均衡」を保つために、こんどは東大出身者を採用するつもりだったらしい、とのことであった。私は教育界のいちばんイヤな面をのぞいたような気がして暗たんとなった。

「まあ、いい。もっといいところを見つけてあげるよ」
と藤井先生がおっしゃった。

会話の本の効能

このごろの会話ブームはおそろしいほどです。会話の本を出版する本屋さんはいそいそ「笑いが止らない」ようです。ところが、これを読んで会話の練習をする読者は「笑いが止らない」でしょうか。やたらにインスタントのはやる時代なので、ある本などは、それを買ってよめば1週間で会話がペラペラになるとうたっています。本当にそうなのでしょうか。

まず第1の難点は、活字は音ではありませんから、目で見て頭で理解しても、耳や口がそれと同調しないのではないかと、いう心配があります。おとなは次第に記憶が視覚化しますから、活字にたよらざるを得ないのですが、かといって100パーセント活字で学んだものが、どうやって音とむすびつくのでしょうか。

第2の難点は、わかったような気にさせることはできても、本当にわからせることができない、ことにあります。言語の機能をおもしろおかしく現象的に説明しても、言語そのものをおぼえなければ役に立ちません。

昔から「言語の学習に安易な道はない」といいます。科学が道を歩きやすくしても、やはり歩かなければならぬ距離は変わらないのです。特に、おとなの方は記憶力もおとろえていますし、集中的に語学演習に時間や労力をさくことができないでしょう。こんな無理な条件のもとで、会話の本がどれほどのはたらきをするか疑問をもちます。活字は利用するものであって、活字にふりまわされてはなりません。言語は音です。そして音は継続的に耳や口をならすことによってはじめて修得できるのです。